



第 3252 図

おせぬまあざみ

*Cirsium homolepis* Nakai

北関東、尾瀬地方の多湿の草原に生ずる多年生草本、高さ80cm内外。短根茎あり、全体に毛がなく上部の枝先にだけ白毛がある。暗蒼綠色、葉は長楕円形で端正に羽状に中〜深裂し、有刺、草質で葉面は平坦、光沢はない。下部では有柄、茎の中部では無柄、軽く茎を抱く。夏晩くから初秋にかけて、茎の上部に稍々集団又は離れて数個の頭花をつける。頭花は上向し、集まる時は殆んど無柄、紅紫花を開く。総苞は長卵状体で長さ2cm内外。苞片は扁平でなく、太針状で緑色に紫を帯び、密に平行直立して開出することがなく、粘性も毛も生じない。本種は恐らく平地の湿潤なところに産するタチアザミの一種であろう。

たかあざみ

*Cirsium pendulum* Fisch.

東北地方から北方の湿気ある草原に生ずる2年生草本。稀に関東及び中部に生ずる。高さ1-2m。茎は直立して太く角張り径1cmを超えるが上部では円錐様に細く且つ立った枝を出す。葉は大形で長さ20-30cm内外、楕円形、又は倒卵状楕円形で羽状に深裂し、裂片は5-6対で間隔距り、前方に小裂片を出すことが多い。草質で薄く光沢はない。茎の中部以上では無柄となる。盛夏を過ぎてから枝端に點頭して多数に頭花をつける。総苞は卵球形で長さ1.8cm内外。底部が凹み、苞片は外部のものとは先端が反捲しているが内方のもは次第に長く且つ反らない。小花は淡紫色で細く長さ約2cm、その2/3が糸の様な細筒部であってアザミ中にこんなに細筒部の長いものはない。冠毛は1.5cm長、白くつやがある。和名は頭花の枝が長く高く抽き上がるに因る。

たいきんぎく

一名ゆきみぎく

*Senecio scandens* Hamilt.

紀州から以西以南の海岸又はその附近の山地に自生する多年生草本。台湾や印度方面にまで分布する。茎は瘦せて倒れ気味になり、上部の花序だけが傾上することが多く、長いのは5mに達する。葉は有柄の三角状披針形、漸尖頭広楔脚、細かい鋸歯があり、時に下部に欠刻ができる。草質で深緑色、軟毛があるが不顕著。晩秋から早春にかけて枝端が細かく分枝し、分枝は往々反転気味にさえなり、多数の黄色の頭花を繖房状につける。総苞は円筒形長さ7mm内外。舌状花は7-10個、広線形で長さ8mm許。冠毛は白く5mm長。和名は堆金菊、黄花が盛り上がって咲くから、又ユキミギクは雪の降る冬に開花する故にいう。



第 3253 図



もみじたまぶき

一名みやまこうもりそう

*Cacalia bulbifera* Max. var. *acerina* Mak. (= *C. farfaraefolia* S. et Z. var. *acerina* Kitam.)

四国から九州の深山の林下に生ずる多年生の草本。高さ20-40cm。短かい根茎から年々1茎を直立する。全体が暗緑色、且つちぢれた毛を散生する。葉は3-4個、有柄で草質、軟かく、表面は光沢がなく、裏には綿毛が処々につき淡緑色で多少光沢がある。縁辺が三裂乃至掌状或は多少不整に中〜深裂する。裂片には更に1-2の欠刻状鋸歯が屢々ある。葉腋には小球状のむかごがあることが多い。秋には茎頂に総状に似た瘦せた円錐状に頭花をつけ、小花は汚黄色、冠毛は白い。タマブキの地方型であるが、母型(主としてウスゲタマブキ)も亦同じ地方に生ずる。

るりぎく

*Stokesia laevis* Greene

(= *S. cyanea* L'Hert.)

北アメリカ南部原産の多年生草本。多く花壇に栽培される。高さ40-60cm許、根生葉は長さ20cm許、無毛、無光沢、やや草質、狭披針形、全縁で柄がある。6月頃より夏中、上方で疎に分枝し、花茎を出して、帯紫青色、径4-5cmの頭花を頂生する。茎の葉は無柄、上方に到るに従って次第に小型となり、茎を抱き、最上方の葉は葉縁下半に毛端の鋭鋸歯がある。周縁花は短筒、先端浅く5裂、中心花は深裂、総苞片は上葉と似て小形で広開し、互に相接することなく開出する。ルリギクは花色に基く。

きりんぎく

一名りあとす、ゆりあざみ

*Liatris spicata* Willd.

高さ60-140cmに達する北米原産の多年生草本で、花壇に栽培され、切花として広く用いられる。花序に散毛のあるほかは、全株無毛、分枝することなく、根生葉は長さ20cm、巾8mm許、無柄で基部は最も広く上方は漸次細まって線形を呈し、茎は基部から上方に至るまで線形の葉を密生し、漸次小形となって苞に移行する。先端20-30cmは頭花を穂状に密に配列した瘦長な花序をなして直立する。頭花は狭長で長さ1-1.3cm内外、茎に密着し、各1苞を具え、花序の下半の苞はその長さ頭花に数倍する。総苞は狭鐘形、総苞片は外片は漸次短かく、先端は円く、縁毛があり、縁辺は膜質で紫色を呈する。花は筒状花のみからなり、1頭花に8-13花、花冠は深裂する。和名は麒麟菊で、狭大な花序を麒麟の頭にたとえたもの、また百合薊は単一の茎と葉の有様を百合に見立てたものである。



第 3255 図



第 3256 図

